

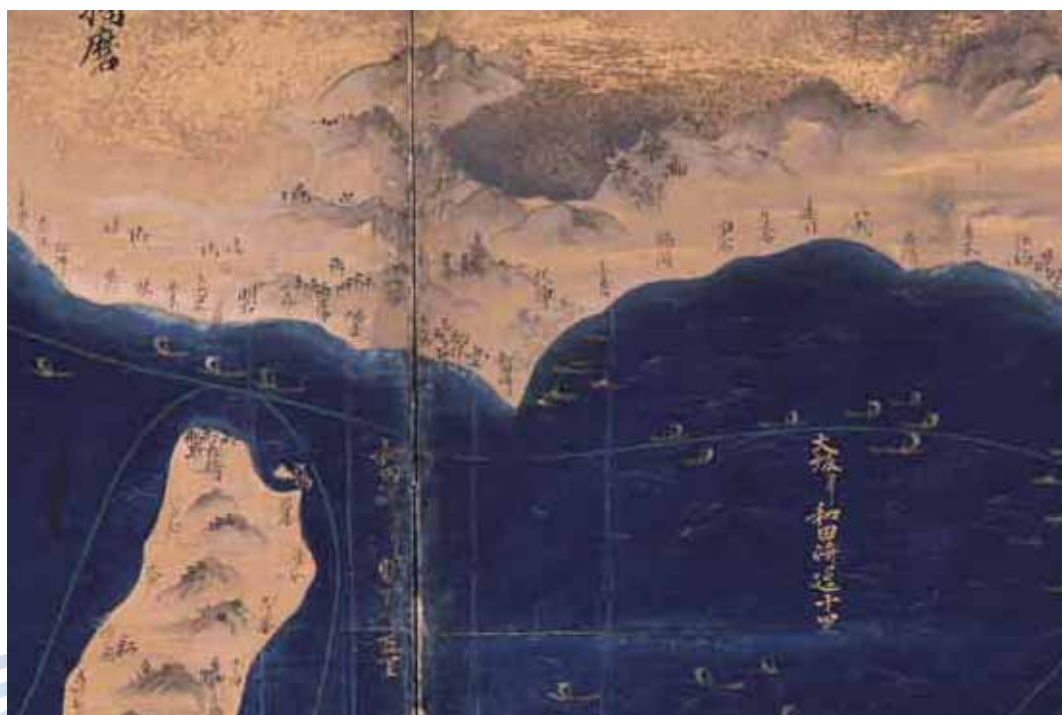
兵庫県立 考古博物館 NEWS Vol.18



Hyogo Prefectural
Museum of
Archaeology



2016 Autumn-Winter



瀬戸内海・西海航路図屏風(部分) 江戸時代初期 大阪城天守閣蔵

特別展 江戸時代の 兵庫津



平成28年秋冬号

| | |
|----------------------------|---|
| ■特別展「江戸時代の兵庫津」 | 2 |
| ◆埋蔵文化財課の仕事 | 4 |
| ◆考古博物館分館 | 5 |
| ◆企画展「ひょうごの遺跡2017」 | 6 |
| ◆平成28年度ふるさと発掘展「大中遺跡「再」発見!」 | 6 |
| ◆知るだけでなく、感じるプログラムを | 7 |

平成28年度 ～秋の特別展～

「江戸時代の兵庫津」

期間：平成28年10月8日(土)～12月4日(日)

古代には「大輪田泊」と呼ばれた兵庫津は、中世から近世には国際貿易あるいは国内流通の主要港として重要な役割を果たし、近代以降の神戸港発展の礎となりました。江戸時代の兵庫津は、約2万人が暮らす国内有数の港湾都市に発展しました。また兵庫津地内を西国街道が通り、宿場町としての性格も有しました。町場は、宿場町を中心とした岡方と港湾機能を持つ浜方に大きく分かれ、やがて浜方は都市域の拡大によって築島船入江を境に北側に連なる北浜と南側に連なる南浜に分化しました。

兵庫津では、浜本陣といって西国の特定の大名家と関係した問屋業者や、北前船による日本海諸地域との交易が本格化するとともに、豪商と呼ばれた北風家や高田屋嘉兵衛らが活躍しました。全国各地の諸商品は兵庫津を中継して大坂や東海、江戸方面へと運ばれました。また、外国使節の寄港地として文化交流の場となりました。

幕末には開港場となる予定でしたが、実際には神戸港が開港され、人・物・情報が行き交う国際貿易港として、世界を代表する港に発展していきました。

この展覧会では、神戸港の原点となった江戸時代の兵庫津の繁栄ぶりや人々の暮らしについて、絵画や絵図、文書資料をはじめ、近年の発掘調査で出土した考古資料をとおして紹介します。

プロローグ 中世から近世初頭の兵庫津

— 国際貿易港・瀬戸内主要港 —

「大輪田泊」は平清盛が経ヶ島を築き、港湾施設を整備して日宋貿易を展開したころから次第に「兵庫津」と称されるようになったと考えられます。平家滅亡後も東大寺や興福寺といった有力寺社の関所が置かれるなど流通の拠点として位置づけられました。

室町時代になって日明貿易がはじまると、遣明船の発着点として再び国際港としての地位を得、16世紀前半までその役割を果たしました。それ以降も、瀬戸内海の重要港としての役割を果たし、天正9年(1581)に池田恒興が兵庫城を築くとともに、徐々に町並みが整備されていきました。

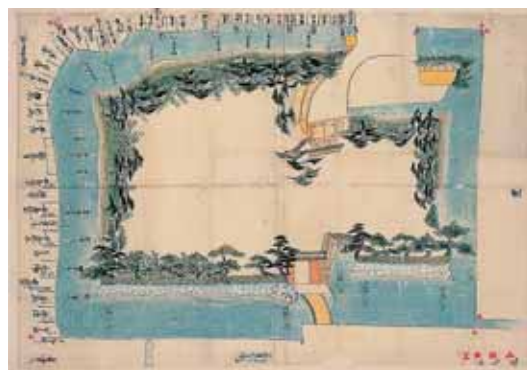
Ⅰ 兵庫津の支配と町運営

— 2万人が暮らした港湾都市 —

兵庫城の築城により、織田・豊臣の勢力下に入りますが、大坂夏の陣で豊臣氏は滅び、兵庫城は廃され幕府領となりました。元和3年(1617)尼崎藩領(戸田

→青山→松平氏)となり、明和6年(1769)幕府から上知を命じられ再び幕府領となりました。兵庫城跡地は、兵庫津支配の拠点として、尼崎藩の時代には兵庫陣屋、上知後の幕府領時には兵庫勤番所が置かれ、大坂町奉行、幕府代官が支配しました。

兵庫津は、ほぼ2万人の人口を擁し、町方(地子方)と田畑・山林のある地方に分かれており、方角と称する組町として、岡方・北浜・南浜の三方に区分され、それぞれ町役人が置かれて町政が運営されました。



兵庫陣屋絵図(江戸時代後期) 神戸市立博物館蔵

Ⅱ 兵庫津の都市空間のひろがり

— 兵庫津を描いた絵図に見る —

兵庫津は江戸時代にどのように都市化していったのでしょうか。兵庫津を描いた現存最古の絵図は、元禄9年(1696)の「摂州八郡福原庄兵庫津絵図」で、岡方の西国街道沿いや海岸部の町では、町屋風の家屋が描かれていますが、内陸部(地方)では藁葺きの家屋が描かれています。元禄9年からほぼ50年後のすがたは「摂津州兵庫地図」で見ることができます。北浜の東出町・西出町が南北に大きく拡大し、さらに湊川を越えて東川崎町ができており、兵庫津の東北部の都市域の拡大が顕著です。

明和6年(1769)の「兵庫津絵図」では、北浜の東出町・西出町はさらに拡大するとともに、湊川惣門の外側に町場が形成され、都市化の進んだことが見てとれます。幕末期の嘉永3年(1850)「津中絵図控」によると海岸部の埋立てがおこなわれるなど、市街地として拡大していったことが確認できます。

Ⅲ 兵庫津に暮らした人々

— 考古資料を中心に —

兵庫津に暮らした人々は、どんな生活を送っていたのでしょうか。具体相を知るうえで発掘資料は有益で

す。兵庫津遺跡の発掘調査では、奈良時代から江戸時代の遺構や遺物が数多く発見されており、江戸時代の町屋跡・寺院跡などの遺構からは多種多様な遺物が出土しています。兵庫津は、幕末期には家数7,418軒あり、そのうち町屋敷を所有する家持は4,968軒、借家は2,450軒でした。ここでは兵庫津の町屋の遺構や日用品・船材などの出土資料をとおして人々の暮らしの様相を示します。



伊万里大皿 兵庫津遺跡出土 神戸市教育委員会蔵

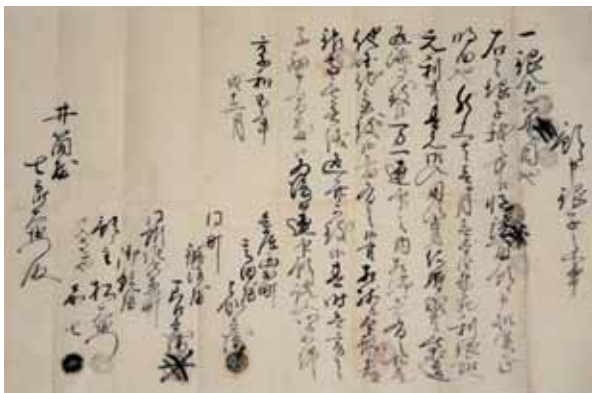
IV 兵庫津の諸相

— 人・モノ・交流 —

西国街道が通る岡方地域には、宿駅間で貨客を輸送する伝馬の継ぎ立てを行う問屋場や、大名の宿泊する本陣衣笠(井筒屋)又兵衛家が神明町にありました。小広町にかけて一般の旅籠屋(はたこ)を営む人たちが住んでおり旅籠町と呼ばれました。

築島船入江を境に北側へ連なる海岸部の北浜は、中世以来の交易の中心地です。18世紀末には北前船による蝦夷地(北海道)や日本海側の各地との交易によって巨額の富を得て、兵庫津最大の豪商となった北風家や工楽松右衛門・高田屋嘉兵衛が活躍しました。また、株仲間をつくって多様な商品を総合的に扱える「諸問屋株」を持つ商人などが商いをけん引しました。

南浜には、特定の西国大名家と関係を持つ浜本陣という問屋業者が11軒(後に9軒)ありました。参勤交代等での宿泊所・休憩所となり、米や国産品を売りさばく特権を与えられました。また、朝鮮通信使やオランダ商館長江戸参府の宿泊先として浜本陣や周辺の民家があてがわれました。



預り申銀子之事(工楽家文書) 個人蔵

エピローグ 兵庫津と神戸開港 — 幕末から明治初年 —

幕末の混乱する社会情勢のなかで、和田岬や湊川に砲台が築かれ、倒幕直前には「ええじゃないか」の民衆運動が起きました。

1868年1月1日(和暦:慶応3年(1867)12月7日)兵庫津ではなく神戸が開港場となり、以後、神戸港が国内有数の貿易・観光の世界の窓口として発展していきました。

(学芸課 松井 良祐)

《講演会・イベント情報》

☆講演会 ※いずれも13:30~15:00、12:50分から整理券配布

「江戸時代の兵庫津」

10月15日(土)

高久智広(神戸市立博物館事業係長)

「発掘調査で見てきた港町・兵庫津」

10月22日(土)

内藤俊哉(神戸市埋蔵文化財センター学芸員)

「北前船の盛衰」

11月12日(土)

松木 哲(神戸商船大学名誉教授)

「城下町から港町へ

— 変わる近世兵庫津とその周辺 —

11月19日(土)

大国正美(神戸深江生活文化史料館長)

【イベント】

①特別展を観覧して神戸港をクルージングしよう!

※要観覧券

日 時: 10月23日(日)

13:15~14:45(乗船時間90分)

講 師: 当館学芸員

②ペーパークラフトで「カーフェリーをつくろう!」

日 時: 10月29日(土)・11月26日(土)

両日とも13:30~16:00

協 力: ザ・コンパス、神戸海洋博物館

③落語会 — 兵庫津や船にゆかりの落語を楽しむ —

※要観覧券

日 時: 11月13日(日) 13:30~15:00

演目・演者: 「兵庫船」桂ひろば

「三十石夢の通い路」桂まん我

前 座: 学芸員による特別展見所紹介

協 力: 米朝事務所

④紙芝居「高田屋嘉兵衛物語」

※ひょうご考古楽倶楽部による自主制作紙芝居の上演

日 時: 開催期間中の土・日曜日 13:00~

⑤「クイズラリー」

日 時: 開催期間中の休館日を除く毎日

9:30~16:30

展示会場内に設けられたクイズに答えてクリアファイルゲット!!【数量限定】

⑥展示解説

日 時: 開催期間中の日曜日 13:30~14:00

※イベント①~③の申込み方法など、詳細は当館までお問い合わせください。

埋蔵文化財課の仕事

「遺跡を探して、後世に伝える」

— 私たちが兵庫の遺跡を守るゴールキーパー —

発掘調査といえば、広い発掘調査現場でたくさんの作業員が竪穴住居や柱穴を掘ったり、土の中から姿を現した土器を刷毛できれいにしているイメージをお持ちではないでしょうか。

こういったテレビや新聞で報道される「花形」の発掘調査も行われる一方で、狭く小さな調査区で地道に行われる発掘調査もあります。

当館では大中遺跡や古代山陽道などを対象とした研究を目的とした発掘調査も行っておりますが、国や兵庫県が公共工事を行う予定地で、「遺跡があるかないか」を探る発掘調査の件数のほうが圧倒的に多いのです。

◆遺跡を探すための調査

今年度、兵庫県内で地下に影響を与える公共工事が約300件予定されています。もちろん、すべての工事予定箇所をいきなり発掘調査をするわけではありません。遺跡の情報がない所では、まず現地を歩いて土器などの遺物が落ちていないか、古墳やお城など地上に段や盛り上がりなどの凹凸がないか、人間が生活するのに適した地形かどうかなどの観察を行います(分布調査)。そして、遺跡の存在しそうな証拠の見つかった場所では、試掘坑(トレンチ)を設定し、昔の人が残した穴などが検出されるかどうかを発掘調査します(試掘・確認調査)。

試掘・確認調査で過去に人間の活動した痕跡が認められれば、工事で影響のある範囲の全体に発掘調査を行います(本発掘調査)。大規模な本発掘調査は基本的に兵庫県まちづくり技術センターに委託して実施します。

◆遺跡は掘ったら二度と戻らない情報の宝庫

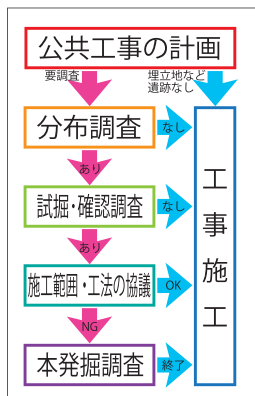
遺跡はできるだけ掘らずにそのままの姿で後世に受け継ぐことが理想的です。遺跡は一度掘り出してしまえば二度と元には戻らないからです。試掘・確認調査はこれまで知られていない地下のデータを把握するために必要ですが、本発掘調査は過去の人間の行動を明らかに出来る手段であると同時に遺跡の破壊することでもあるのです。遺跡を守って後世に伝えるためには、工事予定地に遺跡が眠っていることが判明した時点で計画地を遺跡のない場所に移動したり、地下に影響のない工法に変更するように事業者と協議を行います。

◆兵庫の遺跡を守るには私たち

右下の写真はある日の確認調査の風景です。分布調査でたくさんの土器が拾われた場所でした。現在の耕作土を取り除くと、黒っぽい土にたくさん土器が含まれています。この下には黄色くしまった基盤層が広がり、柱穴などがいくつか見つかりました。少し大きめの穴に埋まっている土には炭や焼土が含まれるものもあり、人間の生活の痕跡をにおわせています。

遺跡の発見にうれしさを感じる一方で、現状のまま保存できない悲しい気持ちに見舞われることもあります。日々、私たちが兵庫県の遺跡を守るゴールキーパーであることを実感しながら、工事予定箇所では遺跡を探して守ろうと、日々模索しています。

(埋蔵文化財課 上田健太郎)



開発から遺跡を守る手順



地表を歩いて観察(分布調査)



土器や炭が含まれる穴を検出(確認調査)

考古博物館分館(加西市)

加西分館、いよいよ姿を現す!

古代中国鏡を中心とした「千石コレクション」の展示施設を加西市にある兵庫県立フラワーセンター内に建築中です。考古博物館の分館として、平成29年4月を開館予定とし、建築工事、展示工事の進捗により、いよいよ形が見えてきました。

建築工事では、ドアの開閉方向、電気スイッチの場所と対象範囲、展示用・メンテナンス用電球の仕様、防火・セキュリティの対策、トイレの壁の色調などなど、細かな調整が続いています。

一方、展示工事では、映像の撮影計画、画像検索用のデータ取りと表示デザインについて検討しています。

映像は、エントランスコーナーで流されるもので、大型モニターに映し出されます。銅鏡製作の様子や、展示品の技と美を紹介することで、古代の鏡に興味をもっていただけるように工夫しています。京都の鋳造工房へのロケなどもありますので、迫力ある仕上

りを楽しみにして下さい。

画像検索では、スマートフォンのように、タッチパネルで直感的に操作でき、拡大や回転ができる高精細画像だけでなく、X線透過画像、立体画像なども表示できるように計画しています。鏡に施された細かな造形により、大人だけでなく子どもでも銅鏡の世界に引き込まれること間違いありません。

これからは、触れて顔を映すことができる銅鏡の鋳造、グラフィックパネルの作成などの展示工事を進めると共に、開館イベントの実施、広報、さらには図録の作成や開館後の企画展、記念シンポジウムなど、様々なイベント準備を並行して行わなければなりません。

貴重なコレクションの価値を少しでも多くの方々に伝えられるよう努力しておりますので、ご期待ください。

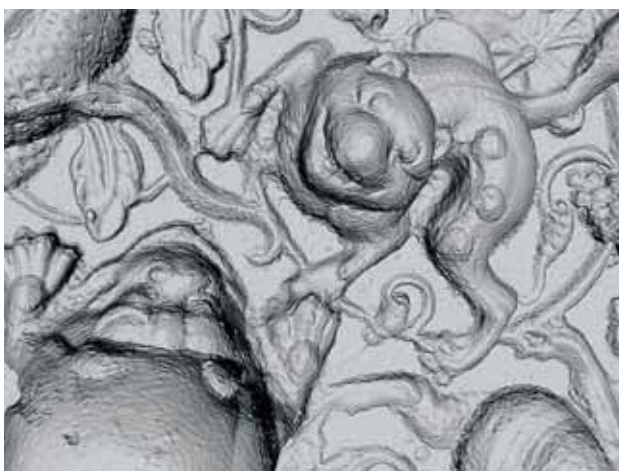
(分館開設準備室 中村 弘)



建築状況(8月現在、西から)



完成パース図(南から)



立体画像(海獣葡萄鏡)



X線透過画像(白黒反転、方格規矩四神鏡)

「企画展 兵庫の遺跡 2017」

— 調査研究速報 —

期間：平成29年1月14日(土)～3月26日(日)

企画展「ひょうごの遺跡」は兵庫県教育委員が実施した最新の調査成果を紹介するもので、今回は平成27年度刊行の6冊の報告書に掲載された8遺跡を展示します。

なかでも、銀山で有名な朝来市生野町の生野代官所跡関連遺跡の調査では安土桃山時代から江戸

時代初期にかけての精錬遺構や建物跡が見つかりました。さらに中国製の青花碗や唐津焼、瀬戸・美濃焼の茶碗、それに秤の錘である銅製の権などの遺物が出土しました。これらの遺構、遺物から生野銀山に関連する当時の町の様子が明らかになりました。

豊岡市上佐野に所在する上佐野1号墳は古墳時代後期の円墳です。横穴式石室を持ち、須恵器杯、壺などの土器とともに鉄製の直刀、鏃、銅製の耳輪などの副葬品が出土しています。

また、あわせて、丹波市の稲塚窯跡や姫路市の鍛冶田遺跡など平成28年度の調査成果についても取り上げます。

(学芸課 岡田 章一)



生野代官所跡関連遺跡出土遺物

平成28年度ふるさと発掘展

大中遺跡「再」発見！

期間：平成29年1月21日(土)～3月20日(月・祝)

場所：播磨町郷土資料館(加古郡播磨町大中1-1-2)

昭和37年に発見された大中遺跡は、弥生時代の集落遺跡として、約4.4万㎡が史跡に指定されました。県内では史跡公園として整備された遺跡の先駆けです。

今回の展示は播磨町郷土資料館を会場に、大中遺跡を含む東播磨の弥生時代遺跡を紹介します。あわせて、大中遺跡が史跡公園として活用され続けている姿にもスポットを当てます。

(学芸課 鐵 英記)



竪穴住居出土土器

知るだけではなく、感じるプログラムを ～新しい学校団体向けプログラム～

当館では、この春から小学校六年生を中心とした学校団体向けに「竪穴住居に入ろう」「本物の土器に触れよう」という2つの新たなプログラムを実施しています。

1. 竪穴住居に入ろう

発掘された状態で館内に展示されている竪穴住居跡と、館外に復元された竪穴住居を連続して観察することで、発掘された状況から当時の住まいを推測し、弥生時代の家の構造や使い方を理解するプログラムです。復元された土器が置かれた竪穴住居の中で当時の人々の暮らしも体感します。

「みんなが住んでいる家と、この竪穴住居、どこが違いますか？」ボランティアの質問に、どんどん声が上がります。「窓がない」「暗い」「床が土」「台所がない」「あ、トイレもない!」。今の生活との比較は、誰もが感じることができ、答えはひとつではありません。ボランティアとの楽しいやりとりのなかで、それぞれが弥生時代の暮らしを考え始めます。



子どもたちとボランティアの楽しいやりとり

2. 本物の土器に触れよう

「博物館に展示している土器は普段は触ることができませんが、今日はみなさんに約2,000年前の弥生時代の土器に触れてもらいます。一分間の持ち時間で一人ずつ大事に触れてください。」子どもたちには、土器の出土した場所、時代などの最低限の情報を伝

えます。土器に触れている子どもには話しかけません。集中した静かな時間が流れます。土器に触れて感じた事を観察シートに書き、最後にみんなの前で発表します。「思ったより重たくてびっくりした。」「ざらざらしていた。」「きれいなもようをつけていた。」「なぜこんなもようにしたのかな?」「今さわったものが2,000年も眠っていたんだな。2,000年前に使っていたんだな。そう思うと何かがこみ上がってくる。」などと、土器と向き合ったことによって、子どもたちが、弥生人、弥生時代に対して様々な事を感じ、想像をしていることがわかります。



じつくりと集中して観察中

3. 知ることと感じること

今までの学校団体の見学では、職員やボランティアが一方的に説明や解説を行ってきました。今回の2つのプログラムはそこからさらに進んで、実物に触れた後、ボランティアが子供たちに寄り添う形で、多様な見方や考える力を引き出す発問をします。子どもたちが、自分なりに感じたことを発言し、ボランティアや他の生徒と共有することで、新たな想像を生み出す機会になるのでは、と考えています。

博物館は知識を得るための場所ではありません。それぞれが様々な経験を通じ、色々な事を感じる場です。子どもたちにとっても、博物館での見学や古代体験、新しいプログラムで感じる様々な疑問や発見が、その後の「知ることの楽しさ」や「新たな学び」につながってほしいと願っています。

(学習支援課 松岡 千寿)

| 9月 | | | |
|-----|----|---|--------------------------------|
| イ | 4 | 日 | クイズ&スタンプラリー |
| 展 | 4 | 日 | 企画展 夏休みこども博物館「探検！古代の世界」閉幕 |
| 展 | 10 | 土 | 『播磨国風土記』(複製品)全巻特別陳列 開幕 |
| イ | 10 | 土 | 『播磨国風土記』特別陳列 ギャラリートーク |
| 体 | 11 | 日 | 赤米をつくろう～観察会&石包丁づくり～ |
| イ | 11 | 日 | 学芸員によるミニ講座 |
| イ | 11 | 日 | バックヤード見学ツアー |
| 講 | 17 | 土 | ひょうご歴史文化フォーラム「播磨国風土記と古代の交通路」 |
| イ | 18 | 日 | 『播磨国風土記』特別陳列 ギャラリートーク |
| 講 | 24 | 土 | 最前線 2016「ヤマト王権と古墳の儀礼」 |
| 体 | 25 | 日 | 古代の技に学ぶかごづくり～箕の菓子器づくり～ |
| イ | 25 | 日 | 『播磨国風土記』特別陳列 ギャラリートーク |
| 展 | 25 | 日 | 『播磨国風土記』(複製品)全巻特別陳列 閉幕 |
| 10月 | | | |
| 体 | 1 | 土 | 連続講座！ 家形ハニワのランプシェードをつくろう① |
| 体 | 2 | 日 | 連続講座！ 家形ハニワのランプシェードをつくろう② |
| イ | 2 | 日 | 学芸員によるミニ講座 |
| 展 | 8 | 土 | 特別展「江戸時代の兵庫津」開幕 |
| 体 | 15 | 土 | 赤米をつくろう～稲刈り～ |
| 講 | 15 | 土 | 特別展講演会「江戸時代の兵庫津」 |
| イ | 16 | 日 | バックヤード見学ツアー |
| 講 | 22 | 土 | 特別展講演会「発掘調査で出てきた港町・兵庫津」 |
| イ | 23 | 日 | 特別展を観覧して神戸港をクルージングしよう！ |
| イ | 29 | 土 | ペーパークラフトで「カーフェリーをつくろう！」 |
| 11月 | | | |
| イ | 5 | 土 | 全国古代体験フェスティバル 2016 |
| 講 | 12 | 土 | 特別展講演会「北前船の盛衰」 |
| イ | 13 | 日 | 落語会ー兵庫津や船にゆかりの落語を楽しむー |
| 講 | 19 | 土 | 特別展講演会「城下町から港町へー変わる近世兵庫津とその周辺」 |
| 体 | 20 | 日 | 楽しい組紐のブローチづくり |
| イ | 26 | 土 | ペーパークラフトで「カーフェリーをつくろう！」 |
| 体 | 27 | 日 | 江戸時代の兵庫津を歩く |

| 12月 | | | |
|-----|----|----|--------------------------------------------|
| 展 | 4 | 日 | 特別展「江戸時代の兵庫津」閉幕 |
| 体 | 10 | 土 | 古代文字でカレンダーをつくろう |
| 体 | 23 | 金祝 | 赤米でお菓子をつくろう～作ってワクワク米粉講座～ |
| 1月 | | | |
| イ | 3 | 火 | お正月イベント 考古博カルタ大会 |
| 展 | 14 | 土 | 企画展「ひょうごの遺跡 2017ー調査研究速報ー」開幕 |
| 講 | 14 | 土 | 最前線 2016「ひょうごの遺跡から古代アジア世界へ」 |
| 展 | 21 | 土 | ふるさと発掘展「大中遺跡「再」発見」開幕 [播磨町郷土資料館] |
| 体 | 29 | 日 | 節分ー鬼瓦のお面で鬼退治ー |
| 2月 | | | |
| 講 | 11 | 土 | 最前線 2016 「中世前期の生活と信仰ー猪名川町多田荘猪瀬遺跡の調査からー」 |
| 体 | 12 | 日 | ガラス勾玉でアクセサリをつくろう |
| 体 | 26 | 日 | ひなまつりーハニワのおひな様をつくろうー |
| 3月 | | | |
| 講 | 4 | 土 | 最前線 2016「茶飲み話の考古学」 |
| 講 | 12 | 日 | 発掘調査速報会 |
| イ | 19 | 日 | 考古博であそぼう |
| イ | 20 | 月祝 | 考古博であそぼう |
| 展 | 20 | 月祝 | ふるさと発掘展「大中遺跡「再」発見」閉幕 [播磨町郷土資料館] |
| 講 | 25 | 土 | 最前線 2016「青銅の武器と鐙」 |
| 展 | 26 | 日 | 企画展「ひょうごの遺跡 2017ー調査研究速報ー」閉幕 |



- 「特別展展示解説」は特別展開催期間中の日曜日に実施。13:30～14:00
- 「石棺に入ろう」は毎週土曜日、「古代船に乗ろう」は毎週日曜日に実施。14:30～15:30
- 体験講座は予約が必要です。実施日の2か月前開始 TEL079-437-5564 (学習支援課)
- イベントについての詳細情報は当館ホームページやチラシでご確認ください。

講…講演会 体…体験講座 イ…イベント 展…展覧会

兵庫県立考古博物館NEWS vol.18 2016 Autumn-Winter

発行年月日 平成 28 年 8 月 31 日

編集・発行 兵庫県立考古博物館
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1
TEL.079-437-5589
FAX.079-437-5599
http://www.hyogo-koukohaku.jp/

- 電車をご利用の方／JR土山駅南口から「であいのみち」を徒歩15分
山陽電車播磨町駅から喜瀬川沿いを徒歩25分
- お車をご利用の方／第2神明・加古川バイパス明石西I.C.から約3km
- 駐車場／町営大中遺跡公園駐車場・野添であい公園駐車場をご利用ください (普通車 1回200円)
- 休館日／月曜日 (祝休日の場合は翌平日)



触れる・体感する、考古学のワンダーランド
兵庫県立考古博物館

